

教科または領域	社会	
対象学年	中学1年生	
授業場所	通常教室	
単元	世界と日本の気候	
単元の目標	緯度・高度による気候の違いを理解し、その上で世界が大きく6つの気候区に分けられること、日本は主に温帯に属していることを理解する。 日本の気候の地域差と四季の変化とその原因・特徴をつかむ。	
単元の指導計画	<p>第1次 ささまざまな気候のようす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候の要因について知る <p>第2次 世界と日本の気候区分（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つの気候帯の特徴を話し合う ・日本の気候区の特徴を雨温図から読み取る <p>第3次 日本の四季の気候</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と四季の気候の特徴を関連付ける <p>第4次 世界と日本の気候について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたい気候区をグループで決め、インターネットを利用して調べる <p>第5次 調べた内容を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容をグループごとに発表する 	
本時のねらい	世界の6つの気候帯と日本の気候区の特徴を理解する	
指導計画	導入	<p>(1) 本時の課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の「さまざまな気候のようす」で学習した内容の復習 ・世界の気候区分図をスクリーンに映し出し、6つの気候帯の特徴をつかむ
	展開	<p>(2) 世界の気候区分について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の気候区分図と併せて各地の自然の様子を映し出し、それぞれの気候区の特徴について気付いたことをワークシートに記入する。 <p>(3) 日本の気候区について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本地図をスクリーンに映し出し、そこに各地の雨温図を併せて映し出す。気付いたことをワークシートに記入する。 <p>(4) 気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で自分の気づいたことを発表する。 ・グループとしての結果をまとめ、代表者が全体で発表する。
	まとめ	<p>(5) 世界と日本の気候区についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表をもとに、補足説明を加えてながらまとめていく。
その他:	<p>世界の気候区を学習するにあたって、教科書に掲載されている写真資料では目線が動きすぎるため、特徴がつかみづらいと思われたので、プロジェクターを用いることにより、クラス全員に同じものを見せることで、目線の動きを極力減らすことにした。普段、プロジェクターなどを用いる機会が少ないので、それだけで生徒の興味を示していた。</p> <p>実際に海外旅行や国内旅行を経験した生徒の数にもよるが、今回のように規模が大きすぎて身近に感じにくい単元については、デジタルコンテンツを利用し、生徒の視線を1箇所に集中させることで、より理解を深められるのではないかを考える。</p> <p>パソコン教室を利用して調べ学習をする際にも、今回利用したサイトを紹介することで、紹介できなかったコンテンツを生徒が自分で見つけ、調べ学習に活用できるのではないかと思う。</p>	